

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 エール・フォーユー

②施設名等

名称：	双葉荘
施設長氏名：	佐藤 明
定員：	50名
所在地(都道府県)：	山形県
所在地(市町村以下)：	新庄市大字荻野字横根山80番地の1
T E L：	0233-25-2018
U R L：	

③実施調査日

開始日	2014/4/7
評価結果確定日	2014/8/29

④総評

◇	<p>特に評価の高い点</p> <p>1、開設から現在のユニットケアについて 当施設は、新庄市と最上郡民生常務委員会で最上梅檀会を組織し、児童養護施設「双葉荘」が設立され、地域と共に約60年の歴史を歩んで来ています。児童相談所が窓口で措置制度となっており、概ね3才から18才の子どもが生活しています。国の構想であるユニット化を平成23年度に完成し、男子・女子に分かれ4ユニット、小規模グループケアの構成になっています。 ユニット制を導入したことで担当職員が定着し、常に傍に寄り添い「子どもと一緒の行動をしよう」を心がけ多くの気づきに繋がり、より密接な関係づくりを大切に支援しています。ユニットグループ活動では子ども達が主体で行事を計画し実施しています。また、縦割り生活の中で、年齢の高い子どもがまとめ役となり、小さい子どもにルールや良い事を教えるなど面倒を見ている。家庭的な環境のもとで明るく元気にのびのびと成長している様子を全職員で温かく見守っています</p> <p>2、心理的ケアについて 心理療法担当職員2名配置し、被虐待児や発達障害等の処遇困難な約半数の子どもに対して月2回程の心理面接を実施しています。面接が終わってからもそのまま遊んでいる子どももおり、以前に比べ心を開き職員にも素直に自分の気持ちを表せるようになり、落ち着いた生活に繋がるなど効果が見られます。職員は一人ひとりの状況を把握し詳細な引き継ぎなどを的確に行い、ユニット会議や職員会議で共有を図り意欲的に取り組んでいます。</p> <p>3、食育について、 子ども達に提供する食事はベテランの栄養士と調理師が担当し、毎月給食会議が開催され、月目標や献立作成、一人ひとりの摂取カロリーの把握、年齢に合わせた食事状況などの検討を行っています。リクエストボックスの設置や幼児には聞き取りを行い、全員に嗜好調査を実施し、献立に反映させ献立表を各ユニットに配布しています。1つのメニューにも年齢別に2種類用意するなどの工夫が見られ、子ども達は「今日のごはんは何か」と楽しみにしており、食事はユニット毎に職員との会話も弾み家庭的な団らんの場となっています。今年度は山形県児童養護施設協議会給食部会で当施設が研究テーマを企画担当し「子ども達と一緒に弁当づくり」が予定されるなど食育に力を入れています。</p>
---	---

◇ 改善が求められる点

1、性教育について

思春期の子どもが多いことを考慮し、年齢に合わせ児童養護施設に相応した性教育の在り方について検討され、子どもに正しく伝えられるよう、職員の学習会等の取り組みに期待します。

2、被措置児童等虐待対応について

管理規程等に人権擁護、虐待防止を明文化し、人権擁護委員会等を設け、不適切なかかわり防止の体制づくりに努めていますが、まだ職員への周知徹底は不十分と感じられます。今後、施設における被措置児童等虐待の未然防止に向けた取り組みや児童福祉法に定められている届出・通告の制度等について研修等を行い、対応を整備し更なる共通理解を図ることを望みます。

3、マニュアルの整備について

既存のマニュアルや問題行動・事故発生時対応等各項目ごとの不足分を確認し、日々の生活で子どもに公平な「バラツキのない、透明性のある基本的な支援」を職員全体で共通認識をもって出来るよう、マニュアル整備の充実化を期待します。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

- ・どの項目に対する評価も現状を的確にとらえたものであると感じました。改善が求められる点については、すでに改善に向けて取り組んでいるものも多くありますが、計画的に改善を図っていきたいと考えております。
- ・利用者（子供たち）へのアンケートのまとめには、プライバシーの問題、職員と子どもたちの人間関係の持ち方等について、施設として真剣に取り組まなければならないと考えさせられる意見が多くありましたので、子ども達の生活を内面から支えられるよう、職員の資質の向上を図る取り組みを強化し、職員の意思統一も図りながら取り組んでいきたいと考えます。
- ・高い評価を得ている項目についてはこれを今後も維持できるようさらに努力していきたいと考えます。
- ・来年度の自己評価に向けて、さらに取組の結果が客観的にみられるような目標設定と計画を立てて、取り組むたいと考えます。

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は心理学的知見や経験によって培われた感性に基づく深い洞察力によって子どもの理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに問題行動等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解している。</p>	b
<p>② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人一人の基本的欲求を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p>	b
<p>③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>朝・夕の忙しい時間帯にも、一人の職員が掌握、援助しなければならない子どもの数が、一般家庭と比して極端に多くならないよう配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は必要以上の指示や制止をしていない。</p>	b

つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。

④

発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。

b

幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。

施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。

幼稚園に就園させている。

子どもの状況に応じて特別支援教育を受ける機会を保障している。

日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。

学校や地域の資源の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、必要な情報交換ができている。

子どもの学びや遊びを保障するための、資源（ボランティア等）が十分に活用されている。

子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。

⑤

秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。

b

職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。

普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。

施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。

子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。

地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。

施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

職員は、子どもと行動を共にし観察期間を設け、適応状況を見て抱える課題の把握を行い支援目標を立てている。職員の押し付けにならないよう、個別の関わりを心がけているが ユニットや職員間にバラつきなどが見られるので、子どものケースをより深く理解し、専門的な立場での確かな判断と統一した支援ができるよう、職員の更なる研鑽を積み全体で共有する取り組みに期待したい。

(2) 食生活	第三者 評価結果
<p>① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。</p> <p><input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。</p>	a
<p>② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 少数の児童を対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。</p>	a
<p>③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。</p> <p><input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。</p>	b

テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。

食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。

日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。

偏食の指導を適切に行っている。

郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。

(3) 衣生活

①

衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。

b

常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが提供され、きちんと着用されるよう細やかな支援をしている。

衣服は、ほつれ、ほころび、穴等、また汚れがないものが着用されている。

年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう配慮している。

毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保されている。

生活場面や活動場面に応じて着替えることのできる衣類を提供している。

靴についても清潔で体にあったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。

②

子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。

b

気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。

個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持てるようにしている。

発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を購入できる機会を設けている。

発達段階に応じて、衣服の着脱、整理整頓ができるよう支援している。

発達段階に応じて、選択、アイロンかけ、補修等衣服の自己管理ができるよう支援している。

衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。

(4) 住生活

①	<p>居室等施設全体がきれいに整美されている。</p> <p><input type="checkbox"/>庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。</p> <p><input type="checkbox"/>室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。</p> <p><input type="checkbox"/>食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>必要に応じて、冷暖房設備を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/>設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。</p> <p><input type="checkbox"/>日常的な清掃や大掃除を行い、破損箇所については軽度な修繕を迅速に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>発達段階や子どもの状況に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。</p>	b
②	<p>子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>6人程度の小集団養育を行う環境づくりに配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭的な環境としてくつろげる空間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。</p> <p><input type="checkbox"/>リビングに子どもの作品や記念の写真が飾られるなど、子どもが安心していられる場所としての感覚(居がい感)を持てるような配慮がされている。</p>	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

食事はメインキッチンからユニット毎に運ばれ、子ども達が役割分担で盛り付けを行っている。職員と共に今日の出来事などを話しながら、食事を楽しみ家庭的な団らんの場となっている。子ども達の嗜好調査なども実施し要望を献立に反映させ給食会議を毎月開催して、状況や情報を共有しながら月の目標を決め、栄養バランスにも配慮した食事が提供されている。

(5) 健康と安全

第三者
評価結果

①	<p>発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 幼児については、常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員がきちんと把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 排泄後の始末と手洗いの支援をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> うがいや手洗いの習慣を養うように支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、健康管理ができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 夜尿のある子どもについて、常に寝具や衣類が清潔に保てるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなど、発達段階に応じた配慮がされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 定例的に理美容をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から児童に教えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所を把握し、職員、子どもに注意喚起が行われている。</p>	b
②	<p>医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。</p>	b

定期的に子どもの健康管理に努めバイタルチェック等により健康状態を把握している。

(6) 性に関する教育

①	子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	c
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
	<input type="checkbox"/> 年齢相応で健全な異性とのつき合いができるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を得る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

基本的な生活習慣は子どもの発達段階に応じて声掛けし、身につくようにしている。
 嘱託医による年2回の健康診断や、身長・体重測定を毎月行い健康の把握に努め、病状により通院するなどの対応はしているが子どもの罹患率の高い歯科・耳鼻科等専門医による定期検診が望まれる。
 性教育については思春期の子どもが多いことを考慮し、児童養護施設に相応した性教育の在り方について検討され、子どもに正しく伝えられるよう、職員の学習会などの取り組みに期待したい。

(7) 自己領域の確保

第三者
評価結果

①	でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
	<input type="checkbox"/> シャンプーなどの日用品は子どもの好みに応じて施設が用意している。	
	<input type="checkbox"/> お茶碗や箸は、個別性に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの嗜好を反映させる。	
	<input type="checkbox"/> 字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 記名やマークが必要な物は、でき得る限り子どもからの許可を得、記名されても子どもが恥ずかしくなくとも済むような場所に留める。	

	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	
②	成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	c
	<input type="checkbox"/> 子ども一人一人に成長の記録(アルバム)が用意され、個人が保管し、自由に見ることができる。	
	<input type="checkbox"/> 成長の記録に空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム)が整理されている。	
	<input type="checkbox"/> 成長の記録(アルバム)の整理が、子どもの生い立ちの整理につながっている。	
	<input type="checkbox"/> 生い立ちの整理の前後に必要なフォローが適切になされている。	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが振り返りたい時に、成長の記録(アルバム)をいつでも見ることができる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に成長記録(アルバム)が手渡されている。	

(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの趣味や興味にあったプログラムになるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に行事の企画・運営に関わることができる。	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 行事等のプログラムに追われることなく、ゆとりある生活が過ごせるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人一人の選択を尊重している。	
②	主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの興味や趣味に合わせて、自発的活動ができるよう工夫している。	

	<input type="checkbox"/> 子ども(外国籍の子ども等)の生活文化を保障し、自由に活動ができるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 学校のクラブ活動への入部は、本人の希望を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域のサークル活動やレクリエーション等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの趣味に応じて、地域の文化・スポーツ活動への参加や習い事を認めている。	
	<input type="checkbox"/> 図書・雑誌・新聞等、子どもの要望に応じた出版物を備えて、自由に閲覧できるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> テレビ・ビデオ・ステレオ等オーディオ機器を備え、子どもの健全な発達に考慮した上で、自由に使用できるようにしている。	
③	子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 計画的な小遣いの使用等、小遣い帳や通帳を使って金銭の自己管理ができるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 無駄遣いをやめ、節約したことによる効果を実感できるようなお金の使い方を体験できるように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど経済観念や金銭感覚が身につくよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 小遣いの使途については、子どもの自主性を尊重し、不必要な制限を加えていない。	
	<input type="checkbox"/> 一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>中学2年生以上は夏と冬の衣替え時に職員と一緒に衣類を買物に行き、好みの物を購入することができる。洗濯は中学生以上各自で行い、整理や管理も職員のアドバイスがあり、自分の物を大切にする支援に努めている。</p> <p>行事毎の全体の写真はたくさん写しているが個人のアルバムは整備されていない。子どもがいつでも自分の成長過程を確認したり、振り返ることができるよう制作しておくことが望まれる。</p> <p>毎月、学年毎の小遣いが設定されており、職員が預かり必要に応じて貰っていくシステムだが、中学生ぐらいから金銭感覚が身につくように、小遣い帳等をつけて自分で管理できるような支援が望まれる。</p>		

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
①	学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出が無いよう把握している。
	b

<input type="checkbox"/> 辞書・参考書等学習に必要な書籍を用意している。	
<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、大学受験生のための環境づくりなどの配慮をしている。	
<input type="checkbox"/> 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう援助している。	
<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。	
<input type="checkbox"/> 学習指導のため、ボランティアの協力を得ている。	
<input type="checkbox"/> 進学児童には、家庭教師や地域の学習塾等を活用している。	
<input type="checkbox"/> 基礎学力の回復に努めている。	
<input type="checkbox"/> 公立・私立、全日制・定時制にかかわらず高校進学を保障している。	

②	「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、子どもと十分に話し合っている。	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるような相談、支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後の進学についてもでき得る限り支援している。	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	

③	職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業主等と密接に連携するなど、職場実習の効果を高めている。	

- 各種の資格取得を積極的に奨励している。
- 職場実習に対する実施規程などを作成し、子どもの自立支援に取り組んでいる。
- 子どもの希望に応じてアルバイト等就労体験を積めるよう支援している。

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

進路選択は保護者、学校、児童相談所、施設と充分に話し合って子ども自身の希望に沿えるように支援している。現況はほとんど高校進学し、通学のための早朝や遅い時間の食事にも対応している。今年3月の高校卒業生6名全員が県内外に就職のため自立退所し、荘長が保証人になった例もある。卒業前に各ユニットの担当職員、自立サポート相談員を中心に職場体験や自炊調理実習を実施し、自立後を見据えた生活指導を行っている。

学習遅滞児が多いとあるため、子ども一人ひとりの学習能力に応じた個別的な学習支援や習慣が身につくような支援が望まれる。

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応

第三者
評価結果

<p>①</p>	<p>子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 問題状況が起こったときは、施設が、問題行動をとった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。 <input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの問題行動の軽減に寄与している。また子どもの問題行動が引き起こされた時も、その都度、問題行動によって生じた生活への影響を施設全体で立て直そうと努力している。 <input type="checkbox"/> 職員の研修等を行い、問題行動に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。 <input type="checkbox"/> 問題行動に対して、放置とにならないような対応を行っている。また、子どもの心身を傷つけずに対応するためには、施設内でタイムアウトをとれる支援体制や、児童相談所や警察などによる対応を依頼する体制などに取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関等とケース会議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。 	<p>b</p>
<p>②</p>	<p>施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示している。 <input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。 <input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。 <input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。 <input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。 	<p>b</p>

	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が適切な対応ができるような体制になっている。	
③	虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
	<input type="checkbox"/> 強引な引き取りのための対応について職員に周知徹底している。	
	<input type="checkbox"/> 引き取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	

(11) 心理的ケア

①	心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置している。	
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理支援プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における他の専門職との多職種連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合施設、学校、児童相談所、関係機関と連携を図り情報を共有して、施設内で安全が確保できるよう取り組んでいる。
 心理療法担当職員2名が週4日来設している。被虐待児など約半数の子どもが心理的なケアを必要としており、月2回程のカウンセリングを受けて自分の気持ちを素直に表せるようになり、落ち着いた生活に繋がるなどの効果が見られる。
 子ども間のトラブル、問題行動が発生した場合は直後の対応が大事と思われるので、全職員が統一した対応ができるようマニュアル整備の検討を期待したい。

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果
①	措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。
	b

<input type="checkbox"/>	措置変更にあたってはケース会議を開催し、措置機関や関係行政機関と協議のうえ、適切な措置変更の時期、措置変更後の生活等について検討している。	
<input type="checkbox"/>	措置変更前の援助が適切に行われている。	
<input type="checkbox"/>	他の施設や里親への移行に当たり、措置変更後の生活がスムーズに行えるように配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
<input type="checkbox"/>	継続的な支援を行うための育ちの記録を作成している。	
<input type="checkbox"/>	措置変更した後も、施設として子どもが相談できるように担当者や窓口を設置している。	
<input type="checkbox"/>	措置変更時に、子どもに対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	
<input type="checkbox"/>	措置変更後の支援を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/>	里親、児童自立支援施設などへ措置変更されたケースについて、再び児童養護施設での養育が必要と判断された場合、入所していた施設は再措置に対応している。	
<input type="checkbox"/>	18歳達する前に施設を退所し自立した子どもについては、まだ高い養護性を有したままであることを踏まえ、必要に応じて再入所の措置に対応している。	

②	家庭引き取りにあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	退所にあたって、ケース会議を開催し、子ども本人や保護者の意向を踏まえて、児童相談所や関係機関と協議し、適切な退所時期、退所後の生活を検討している。	
<input type="checkbox"/>	家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援など関係機関との役割を明確にしている。	
<input type="checkbox"/>	退所後も施設として子どもと保護者が相談できる窓口を設置し、退所後の相談を受けることを本人、保護者に伝えている。	
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者の状況の把握に努め、退所後の記録を整備している。	

③	できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
<input type="checkbox"/>	高校卒業して進学したり就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	
<input type="checkbox"/>	措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	
<input type="checkbox"/>	高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもについて、措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	
<input type="checkbox"/>	子どものニーズを把握し、自立に向けて、十分な準備を行い、適切な支援を行っている。	

④	子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
---	--	---

<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先からの連絡、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	
<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいはアフターケアを行う民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所児童とが交流する機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> 退所した子どもから相談があった場合、必要に応じ他の資源（ハローワーク・法テラス・退所後支援団体・当事者団体など）と連携している。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

児童相談所等関係機関とは常に協議や連携を図り、変更等の最終判断は児童相談所がしている。進学困難児等には将来の社会自立に向けた支援として措置継続を行っている。

家庭復帰後や退所後の継続支援に、業務量など負担のかからない方法での検討や引き継ぎ手順等を整備し、施設の役割として切り離せないケアに家庭支援専門相談員を中心とした積極的な取り組みが望まれる。

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
<p>① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置し、その役割を明示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童相談所の入所依頼があった段階から、施設と家族が信頼関係を構築できるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭訪問や親との面接などを通じて家族への働きかけを行い、親子関係の継続や修復に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりの発見に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の予定や情報を、家族に随時知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが家族との交流を望む場合、積極的に支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者による「不当に妨げる行為」に対して、適切な対応を行っている。</p>	b
<p>② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。</p>	b

	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅については、規程に基づいて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 保護者を含めたケース会議を定期的に行き、外出や一時帰宅の様子について保護者からフィードバックしてもらっている。	
	<input type="checkbox"/> 親子が必要な期間一緒に過ごせるような宿泊設備を施設内に設けている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが家族との交流を希望しない場合には、その意思を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 被虐待児など配慮が必要な子どもについては、ケース会議などで検討し、児童相談所と十分な協議の上で、行っている。	

(2) 家族に対する支援

①	親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 「親子関係の再構築」への取組に当たって、まずケースの総合的な見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みなどを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 最早期に、保護者等への家庭訪問やケース会議などが十分に積み上げ、関係者間の合意形成を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 再構築へとつながる「親子宿泊」や「週末帰宅」などの取組を具体的に、柔軟に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要な親には掃除・洗濯・食事作りなどといった家事や金銭管理などの生活スキルをアドバイスし、親子と一緒に暮らす上での課題のクリアに努めている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

家庭支援専門相談員は学校等関係機関との連携や家族との調整に努めている。また、外出や一時帰宅など子どもとの関係調整も行い、一人ひとりの家庭環境に合わせた再構築の支援は柔軟に対応している。退所後は自立家庭復帰に向け、家族との関わりに児童相談所と連携しながら親子関係改善プログラム等の計画的な取り組みが望まれる。

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果	
①	子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した子どもの心身の状況や生活状況等の情報を、総合的に分析、検討した課題を適切に把握し、施設が定めた統一した様式によって記録している。	
	<input type="checkbox"/> アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている。	

<input type="checkbox"/> 部門を横断した様々な職種の関係職員(種別によって組織以外の関係者も)が参加して、アセスメントに関する協議を実施している。	
<input type="checkbox"/> 子ども一人一人の具体的なニーズが明示されている。	
<input type="checkbox"/> 様式の中には、子どもの強みや長所など伸ばすことも記載している。	
<input type="checkbox"/> アセスメントは、子どもの担当職員をはじめ、心理療法担当職員、家庭支援専門相談員などが参加するケース会議で合議して行っている。	

②	アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者(基幹的職員等)を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断した様々な職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築されるとともに、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と援助方針等について打ち合わせ、自立支援計画に反映している。	
	<input type="checkbox"/> 策定した自立支援計画を児童相談所に提出し、共有している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、支援上の課題と、問題解決のための支援目標と、目標達成のための具体的な支援内容・方法を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 支援目標は、子どもに理解できる目標として、表現し、努力目標として子どもに説明し、合意と納得を得ている。	

③	自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、ケース会議の参加職員、子どもや保護者等の意向把握を得るための手順等、施設として仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しにより変更した自立支援計画の内容を関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 計画の見直し時には、支援方法を振り返り、自己評価し、支援の成果について分析、検証を行い、専門性や技術の向上に努め、施設全体の支援の向上に反映させる仕組みを構築している。	
	<input type="checkbox"/> アセスメントと計画の評価・見直しは、少なくとも半年ごとに定期的に行い、かつ緊急の見直しなど必要に応じて行っている。	

(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録

①	子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
---	-------------------------------	---

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画に基づく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導などの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの強みや長所、あるいは発見などについて配慮しながら記録している。	
②	<p>子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。</p> <input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の記録の保管、保存、廃棄に関する規程等を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等から情報の開示を求められた場合に関する規程を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護と情報開示の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護法を理解し、遵守している。	
	<input type="checkbox"/> 職員に守秘義務の遵守を周知している。	
③	<p>子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。</p> <input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	b
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的として、ケース会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 記録について、パソコンを利用している場合にはネットワークシステム等を利用して、パソコンを利用していない場合には台帳が整備され、施設内で情報を共有する仕組みを作っている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

児童自立支援計画作成要綱を基に、自立支援計画票に沿ってユニット単位で手順に合わせながら一貫性や継続性の支援に努めている。年2回の評価・見直しを行い、子ども等にはケースバイケース、口頭で説明している。

業務日誌、ケース記録等に毎日の養育・支援状況など必要な情報等を記載し、管理、共有は主にユニット毎であり、施設全体として計画に沿った支援の確認や書き方等に職員間の意識や方針が共通理解に繋がるよう今後の取り組みが期待される。

記録の開示請求等に対応できるよう規定等の整備も期待したい。

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
<p>① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止について職員に周知徹底している。</p>	b
<p>② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているか、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員相互で子どもの養育に対する姿勢の士気が涵養されている。</p> <p><input type="checkbox"/> プログラムに縛られた生活ではなく、子どもと職員と一緒に生活を展開できるようになっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	b
<p>③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達等に応じて、可能な限り事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、子どもの精神発達や個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 家族の情報の中には子どもに知られたくない内容があることも考慮し、場合によっては児童相談所との連携を行っている。</p>	b
<p>④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等の整備や、施設・設備面での工夫等、組織として具体的に取り組んでいる。</p>	b

居室への立ち入りや手紙の開封等が必要な場合の事前説明と本人の同意等について手続きを定めて行っている。

子どものプライバシー保護に関する基本的知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・意識、利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。

規程・マニュアル等に基づいた養育・支援が実施されている。

⑤

子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。

a

施設において宗教的活動を強要していない。

個別的な宗教活動は尊重している。

保護者の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。

(2) 子どもの意向への配慮

①

子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。

b

子どもの意向に関する調査を定期的に行っている。

子どもの意向を把握する目的で、子どもへの個別の相談面接や聴取、子どもや保護者との懇談会を定期的に行っている。

子どもや保護者の意向を把握する目的で、子ども会や保護者会などに出席している。

子どもや保護者の意向に関する調査の担当者・担当部署の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。

分析・検討の結果に基づいて具体的な改善を行っている。

②

職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。

b

子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。

生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。

生活日課は子どもとの話し合いを通じて策定している。

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

管理規程に権利を尊重する養護・養育方針を明記し、年間事業計画に全国児童養護施設協議会倫理綱領等を盛り込んでいる。子どもの意見や意向把握に意見箱の設置や聞き取り・アンケートを行い、結果を子どもにフィードバックし日常生活の見直しに役立たせている。子ども達はユニット毎、高学年がまとめ役となり話し合いを設け、生活のルール等を決めている。職員は場面に応じた対応に一方的にならないよう振り返り、情調を感じながら支援に取り組んでいる。

権利擁護を中心とする支援は重要と思われるので、定期的に行う各種会議を職員周知の場と捉え、全職員の研修を重ねるなど方針の理解を深める取り組みが望まれる。

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
<p>① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> インターネットを利用して、施設を紹介したホームページを作成し公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 見学、体験入所、1日利用等の希望に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設の様子(内容)がわかりやすく紹介された印刷物等を作成し、希望があれば見学にも応じるなど養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行っている。</p>	b
<p>② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所時に、養育・支援の内容が具体的に記載された資料を用意して、子どもや保護者等に説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 説明に当たっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設の規則、面会や帰宅などの約束ごとや生活上の留意点等についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの不安を解消し施設生活を理解できるよう配慮し、担当者を決めて適切な援助を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所時の子どもや保護者等への説明を施設が定めた様式に基づき行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 未知の生活への不安を解消し、これからの生活に展望が持てるようにわかりやすく説明している。</p>	b
<p>③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、児童の分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。</p>	b

入所した時、生活する居室が清潔に整えられ、例えば花や歓迎のメッセージカードを添えるなど、温かく迎える準備をしている。

入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めている。

(4) 権利についての説明

①

子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。

b

定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。

定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。

日常生活の中で起こる出来事を通して、正しい理解につながるよう努めている。

年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)

権利ノートやそれに代わる資料を使用して施設生活の中で守られる権利についてわかりやすく随時説明している。

子どもの状態に応じて、権利と義務・責任の関係について、理解できるように説明している。

子どもに、子ども自身がかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。

子どもに、全ての子どもや大人たちも大切な存在であり、それらの人を悲しめたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。

(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境

①

子どもが相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。

b

子どもが、複数の相談方法や相談相手の中から自由に選べることを、わかりやすく説明した文書を作成している。

子ども等に、その文書を配布している。

子どもや保護者等に十分に周知し、日常的に相談窓口を明確にした上で、内容をわかりやすい場所に掲示している。

相談や意見を述べやすいようなスペースに配慮している。

子どもが自由に意見を表明できるよう、子どもと職員の関係づくりに取り組んでいる。

普段の子どもの表情や態度からも気持ちや意見を読み取るように取り組んでいる。

	<input type="checkbox"/> 発達段階や能力によって十分に意思を表明することができない子どもに対して、職員が代弁者としての役割を果たすよう努めている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の場面で、面接を実施し、子どもから意見を引き出すよう取り組んでいる。	
②	<p>苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。</p> <input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)を整備している。	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みを説明した資料を子どもや保護者等に配布、説明しているとともに、わかりやすく説明した掲示物を掲示している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者に対して、苦情記入カードの配布や匿名アンケート実施など子どもや保護者が苦情を申し出やすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情を受け付けて解決を図った記録が適切に保管されている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情への検討内容や対応策を、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮した上で、苦情内容及び解決結果等を公表している。	
③	<p>子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。</p> <input type="checkbox"/> 意見や提案を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について規定したマニュアルを整備している。	b
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアルに沿った取組がなされており、意見や提案のあった子ども等には、検討に時間がかかる場合も状況を速やかに報告している。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアルの定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情や意見等を養育・支援や施設運営の改善に反映している。	
	<input type="checkbox"/> すぐに対応することが難しいことについても、職員会議等で話し合う等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの希望に応えられない場合には、その理由を丁寧に説明している。	
(6) 被措置児童等虐待対応		
①	<p>いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p> <input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記している。	c
	<input type="checkbox"/> 具体的な例を示して体罰等を禁止している。	

体罰等があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。

体罰等の禁止を職員に徹底するため、日常的に会議等で体罰等を取り上げ、行われていないことを確認している。

体罰等の起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、体罰等を伴わない援助技術を習得できるようにしている。

自傷行為や他者への加害行為を阻止するための方法について検討し、適切に対応している。

②

子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。

b

暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。

不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。

不適切なかかわりに迅速に対応できるように、子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。

不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。

不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、これによらない援助技術を習得できるようにしている。

不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制(配置や担当の見直し等)を検討している。

不適切なかかわりの防止の視点から、密室・死角等の建物構造の点検と改善を行っている。

不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。

不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがとられている。

子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。

③

被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。

b

被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備されている。

被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。

被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備されている。

被措置児童等虐待の届出・通告制度について、研修会などで職員に周知をしている。

被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示している。

(7) 他者の尊重

①	<p>様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。</p>	b
	<p><input type="checkbox"/>基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>喧嘩など子どもの間でトラブルが生じた時、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるようになれるよう支援している。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>上の年齢との関係、同年齢との関係、下の年齢との関係などの人間関係を日常的に経験できる生活環境を用意するなど、人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重して共生できる人間性を育成するよう努めている。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>小学生や障害児など弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するよう支援している。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>老人施設への訪問等による異年齢交流や児童養護施設間交流を実施するなど、多くの人たちとのふれあいの機会を可能な限り実行している。</p>	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

入所前は必要に応じて施設見学を行い、入所時にはパンフレットや権利ノート等を活用し、年齢ごとに説明している。ユニットの構成は縦割りで年齢層の幅もあるが、互いに助け合いを大事にしている様子が窺われる。アンケートや心理面接の実施、日々子どもの声を聴くなど、意見等を述べやすい環境に工夫しているが、年齢層に応じた課題も異なり、子どもが自分達の問題や改善点を主体的に検討する「子ども会」などを設け、全ユニットの均一性と生活の質向上に繋がることを望まれる。

管理規定に人権の擁護及び虐待防止を明示し、マニュアル等を備えているが、不適切なかかわりが生じないよう、未然防止に向けた取り組みや届出・通告制度の法定化について研修等を行い、被措置児童等虐待に対する対応を整備し、共通理解と更なる周知徹底を図ることを期待したい。

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	<p>事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。</p>	b
	<p><input type="checkbox"/>施設長は子どもの安全確保の取組について、リーダーシップを発揮している。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>子どもの安全確保に関する担当者・担当部署を設置し、その担当者等を中心にして、関係職員の参画のもとで定期的に安全確保に関する検討会を開催している。</p>	
	<p><input type="checkbox"/>リスクの種類別に、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。</p>	

- 事故発生対応マニュアル、衛生管理マニュアル等を作成して職員に周知しているとともに、マニュアル類は定期的に見直しを行っている。
- 不審者の侵入等の緊急時の安全確保の体制が整備されている。
- 施設周辺等における不審者等の情報について、日頃から地域や警察等の関係機関と連携して、情報を速やかに把握できる体制をとっている。
- 子どもが犯罪や事故の被害から自分を守るため、施設外での行動に当たって遵守すべき事項について支援している。

②

災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。

b

- グループホームを含め立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類の必要な対策を講じている。
- 災害時の対応体制を整えている。
- 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、全職員に周知されている。
- 食料や備品類などの備蓄リストを作成し、備蓄を進めている。
- 地元の消防署、警察、自治会、消防団等と連携するなど工夫して訓練を実施している。

③

子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。

b

- 法令で定められるもののほか、安全対策の一環として建物設備や遊具等の点検を行ったり、施設内外の危険箇所について把握している。
- 薬品、刃物、電気製品など危険物の収納管理など、事故を未然に防ぐための取組を組織的にしている。
- 子どもの安全を脅かす事例の収集を、その仕組みを整備した上で実施している。
- 収集した事例について、職員の参画のもとで発生要因を分析し、未然防止策を検討している。
- 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。
- 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。
- 災害や事故発生に備え、危険箇所の点検や避難訓練を実施している。
- 外部からの不審者等の侵入防止のための対策や訓練など不測の事態に備えて対応を図るとともに、地域の関係機関等と連携し、必要な協力が得られるよう努めている。

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

防災訓練計画を策定し、年12回(月1回)の訓練を実施している。不審者等の侵入防止訓練等や非常食品の備蓄など担当者を設置し有事に備えている。また、事故防止に向けた通学時における巡回指導を行い、安全確保に配慮している。インフルエンザ予防接種などは入所時に保護者の同意を得ている。

子どもを脅かすヒヤリハット等の事例を収集し、リスクや要因分析を行い具体的な安全管理への対応策を講じ、マニュアル等の見直しに繋げ、整備を期待したい。

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携	第三者 評価結果
<p>① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示し、当該地域の関係機関・団体について、その機関・団体との連携の必要性を含めたリストや資料を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員会議で説明する等職員間で情報の共有化が図られている。</p>	b
<p>② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体とのネットワーク化に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや家族の支援について、関係機関等と協働して取り組む体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> ネットワーク内で共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体ネットワーク内での共通の課題に対して、ケース会議や情報の共有等を行い、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設職員等が要保護児童対策地域協議会などの会議やケース会議等に積極的に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童相談所と施設は子どもや家族の情報を相互に提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 幼稚園、学校との連携を図るために、役員等をしてPTA活動に参加する、学校や幼稚園の行事に積極的に参加する、施設での行事に招待するなどの取組を行っている。</p>	b
<p>③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 幼稚園、小学校、高等学校等との定期的な連絡等の連携を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/> PTA活動に参加している。</p>	a

学校行事等に保護者と連携をしながら参画している。

子どもの学校での様子や課題を適切に把握している。

子どもについて、必要に応じて施設の援助方針と教育機関の指導方針を互いに確認し合う機会を設けている。

(2) 地域との交流

①

子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。

b

地域とのかかわり方について基本的な考え方を文書化している。

活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で子どもに提供している。

子どもが地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが援助を行う体制が整っている。

施設や子どもへの理解を得るため地域の人々と子どもとの交流会の機会を定期的に設けている。

施設の職員等が町内会や児童会等、地域の諸団体の役員等として活動している。

法人や施設を支える会、後援会等を組織し、施設の養育・支援の趣旨に賛同した地域の人々から支えられている。

子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の利用者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。

地域のボランティア活動の参加や、お祭りなど地域社会の活動へ参加を支援している。

学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境作りを行っている。

②

施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。

b

育児に関する講習会や研修会、地域住民の生活に役立つ講演会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。

地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。

地域の人々の理解を得ることやコミュニケーションを活発にする取組を積極的に行っている。

育児相談窓口、子育て支援サークル等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。

③

ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。

b

<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、仕事内容、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して必要な説明や研修を行っている。	
<input type="checkbox"/> 施設の主催行事にボランティアを招くなど、ボランティアに施設をより深く理解してもらう取組をしている。	

(3) 地域支援

①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携に基づき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催する等によって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施すること等を通じて、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 社会的養護の施設の責務を果たすべく、開かれた施設運営を行っている。	
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズに基づいて実施した具体的な事業・活動がある。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズに基づいた具体的な事業・活動を、中・長期計画や事業計画の中に明示している。	
	<input type="checkbox"/> 新たな事業・活動や企画の実施の時には、その利用者等に対して説明し、その意向を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 施設が有する専門性を活用し、地域の子育ての相談・助言や市町村の子育て事業の協力している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の里親支援、子育て支援等に取り組むなど、施設のソーシャルワーク機能を活用し、地域の拠点となる取組を行っている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

子どもが通学している幼稚園、小学校、中学校、高等学校とは定期的に情報交換し、連携を密にしながら情報を共有している。保護者には年度始めに各学校の年間行事予定表を送付し参加を促しており、PTA活動や学校行事に職員と連絡を取りながら参加してもらっている。
 児童相談所や関係機関と連携を図っている。子どもには児童相談所の担当福祉司が付き年度始めに面談があり、措置変更や退所は判定会議を開催し児童相談所が決定している。
 地区消防団との合同避難訓練や納涼祭、花火大会、スキー教室、花いっぱい運動などの地域交流が行われている。

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	<p>組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や中・長期計画の中に、組織が職員に求める基本的姿勢や意識を明示している。</p> <p><input type="checkbox"/>現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や中・長期計画の中に、施設が職員に求める専門性や専門資格を明示している。</p>	b
②	<p>職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員一人一人について、援助技術の水準、知識、専門資格の必要性などを把握している。</p> <p><input type="checkbox"/>策定された教育・研修計画に基づき、実際に計画に従った教育・研修が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設内外の研修を体系的、計画的に実施するなど、職員の自己研鑽に必要な環境を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>教育・研修計画には、新任職員研修も含め段階的な教育・研修が設定されている。</p>	b
③	<p>定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/>研修を終了した職員は、報告レポートを作成している。</p> <p><input type="checkbox"/>研修を終了した職員が、研修内容を報告会などで発表し、共有化する機会を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>報告レポートや発表、当該職員の研修後の業務等によって、研修成果に関する評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>評価・分析された結果を次の研修計画に反映している。</p> <p><input type="checkbox"/>評価・分析された結果に基づいて、研修内容やカリキュラムの見直しを行っている。</p>	b
④	<p>スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設内に研修計画担当職員を配置し、研修計画の体系化を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>外部研修会への派遣等の研修のみならず施設内研修を計画的に実施している。</p>	b

	<input type="checkbox"/> 職員がひとりで問題を抱え込まないように、施設長、基幹的職員などに、いつでも相談できる体制を組織として確立している。	
	<input type="checkbox"/> 日々の報告や記録を通して、課題の発見とその克服に向けた問題意識の共有が図れるように、適切に対処していく体制が確立されている。	
	<input type="checkbox"/> 特定の職員だけが課題を抱え込まないように、チームワークを大切にしながら、養育・支援に努めている。	
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>外・内部研修が年間計画され、基幹的職員と研修推進委員で職員に割り振りをしている。参加後資料を添付した復命書を提出し、職員会議での報告や回覧しているが施設内での評価・分析・共有化が不足していると思われる。新任、若年、臨時職員が多いことを考慮し、施設が求める職員の専門性(知識、技術、判断力等)や資格取得に対応した具体的な目標を設定して、職員の資質向上に繋がるような研修計画の立案が望まれる。</p>		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
<p>① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。</p>	a
<input type="checkbox"/> 法人・施設の運営理念が文書(事業計画等の法人・施設内文書や広報誌、パンフレット等)に記載されている。	
<input type="checkbox"/> 法人・施設の運営理念から、法人・施設が実施する社会的養護の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	
<input type="checkbox"/> 法人・施設の運営理念には運営指針を踏まえ、子どもの権利擁護や家庭的養護の推進の視点が盛り込まれ、施設の使命や方向、考え方が反映されている。	
<p>② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。</p>	a
<input type="checkbox"/> 基本方針には、運営指針を踏まえ、子どもの権利擁護や家庭的養護の推進の視点が盛り込まれている。	
<input type="checkbox"/> 基本方針には施設の役割や機能などが具体的に記載されている。	
<input type="checkbox"/> 基本方針が文書(事業計画等の法人・施設所内文書や広報誌、パンフレット等)に記載されている。	
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人・施設の運営理念との整合性が確保されている。	
<input type="checkbox"/> 基本方針は、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
<p>③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。</p>	b

	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針を会議や研修において説明している。	
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針の周知を目的とした実践テーマを設定して会議等で討議の上で実行している。	
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
④	運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針をわかりやすく説明した資料を作成する等、より理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 障害のある保護者や子どもに対しての周知の方法に工夫や配慮をしている。	
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に資料をもとに説明している。	
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定

①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 運営理念や基本方針あるいは質の高い養育・支援の実現に向けた将来像や目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 実施する社会的養護の養育・支援の内容や、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成等の現状分析を行い、課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、課題や問題点の解決に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画に基づく取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の小規模化と地域分散化による家庭的養護の推進を図るため、本体施設は小規模グループケア化するとともに、小規模化し、併せて、家庭的養護の推進に向け、施設機能を地域に分散するグループホームやファミリーホームへの転換を行う移行計画を策定している。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、本体施設が専門的ケアや地域支援の拠点機能を強化し、地域の里親支援や家庭支援を行う体制を充実させる内容になっている。	
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画には、小規模化、専門的支援、人材育成、地域支援等、中・長期計画の内容を反映した各年度における事業内容が具体的に示されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画は、実行可能かどうか、具体的な活動や数値目標等を設定することによって実施状況の評価を行えるかどうかについて配慮がなされている。	

	<input type="checkbox"/> 事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画は、前年度の実施状況の把握や評価を踏まえて策定している。	
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 年度終了時ではもとより、年度途中にあっても、あらかじめ定められた時期、手順に基づいて事業計画の実施状況の把握、評価を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果に基づいて各計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 一連の過程が一部の職員だけで行われていない。	
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 各計画を会議や研修において説明している。	
	<input type="checkbox"/> 各計画をメールで配信したり、見やすい場所に掲示するなどの工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 各計画をわかりやすく説明した資料を作成する等によって、より理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 各計画の進捗状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
⑤	事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に各計画をわかりやすく説明した資料を作成する等によって、より理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 各計画を子どもや保護者等に資料をもとに説明している。	
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>事業目的・基本理念・運営方針・児童の育成方針が明文化されており、法の改正や節目に見直し修正を行っている。</p> <p>国が平成27年度から推進する施設の小規模化・地域分散化にむけた「家庭的養護推進計画」を検討委員会を立ち上げ現在策定中であり、県に近々報告する予定なので施設独自の中・長期計画策定を検討し、単年度事業計画に繋がることを望みたい。</p> <p>子どもの年齢差を考慮し、高学年以上ぐらいには分かりやすい文章で書いた事業計画の配布や説明の検討を期待したい。</p>		

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
--------------------	-------------

①	<p>施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任について、文書化するとともに、会議や研修において表明している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任について、広報誌等に掲載して表明している。</p> <p><input type="checkbox"/>平常時のみならず、有事(災害・事故等)における施設長の役割と責任が明確になっている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるよう自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	b
②	<p>施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、法令遵守の観点での施設経営に関する研修や勉強会等に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、リスト化する等の取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	b
③	<p>施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、実施する養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を取り入れるための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	b
④	<p>施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けて、人事、労務、財務等の面から分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、上記について、組織内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営や業務の効率化や改善のために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	b

(4) 経営状況の把握

<p>①</p>	<p>施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会的養護の動向について、具体的に把握するための方法を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数や子どもの状況等について、施設が位置する地域での特徴・変化等を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援のニーズ、潜在的な保護を要する子どもに関するデータ等を収集している。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握された情報やデータが、中・長期計画や各年度の事業計画に反映されている。</p>	<p>b</p>
<p>②</p>	<p>運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や子どもの数の推移、入所率等の分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善に向けた取組が、中・長期計画や各年度の事業計画に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 運営状況や改善すべき課題について、職員に周知し、職員の意見を聞いたり、職員同士の検討の場を設定する等、施設全体で取組を行っている。</p>	<p>b</p>
<p>③</p>	<p>外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業規模に応じ、定期的に（2年あるいは5年に1回程度）、外部監査を受けるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の結果や、公認会計士等による指導や指摘事項に基づいて、運営改善を実施している。</p>	<p>b</p>
<p>（特に評価が高い点、改善が求められる点）</p> <p> 荘長の役割と責任は明文化され広報誌などにも表明し、毎月の様々な会議において管理者として主導している。</p> <p> 通知文書や研修等で知り得た情報を職員に周知し意見を吸い上げる努力はしているが、養育・支援に関する課題の更なる把握と体制づくりを明確にする取り組みを期待したい。</p>		

<p>(5) 人事管理の体制整備</p>	<p>第三者 評価結果</p>
<p>①</p> <p>施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な人材や人員体制に関する基本的な考え方や、人事管理に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉士等の有資格職員や心理職等の専門職の配置等、必要な人材や人員体制について具体的なプランがある。</p> <p><input type="checkbox"/> プランに基づいた人事管理が実施されている。</p>	<p>b</p>

	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取組、人員体制の充実に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 職員が、各職種の専門性や役割を理解し合い、互いに連携して組織として養育・支援に取り組む体制が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 基幹的職員、家庭支援専門相談員、心理療法担当職員、里親支援専門相談員等の専門職員の機能を活かしている。	
②	<p>客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。</p> <input type="checkbox"/> 人事考課の目的や効果を正しく理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 考課基準を職員に明確に示すことや、結果の職員へのフィードバック等の具体的な方策によって客観性や透明性の確保が図られている。	
③	<p>職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。</p> <input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の消化率や時間外労働のデータ、疾病状況を定期的にチェックしている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や就業状況チェックの結果を、分析・検討する担当者や担当部署等を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 分析した結果について、改善策を検討する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的なプランに反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面接の機会を設ける等、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 希望があれば職員が相談できるように、カウンセラーや専門家と連携している。	
	<input type="checkbox"/> 困難なケースの抱え込みの防止や休息の確保などに取り組んでいる。	
④	<p>職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。</p> <input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、福利厚生センターへの加入等、総合的な福利厚生事業を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の悩み相談窓口を組織内に設置し、又は、関係機関と連携して、解決に向けた体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康に留意し、定期的に健康診断を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 臨床心理士や精神科医などに職員が相談できる窓口を施設内外に確保するなど、職員のメンタルヘルスに留意している。	

(6) 実習生の受入れ

①	<p>実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>実習生受入れに関する意義・方針を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/>実習生受入れに関する意義・方針を会議等で職員に説明し、全職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>実習生の受入れについて、受入れについての連絡窓口、事前説明、オリエンテーションの実施方法等の項目が記載されたマニュアルが整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>受入れに当たっては、学校等との覚書を取り交わす等によって、実習における責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>実習指導者に対する研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>学校等と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>学校等と連携しながら、実習内容全般を計画的に学べるプログラムを策定している。</p> <p><input type="checkbox"/>社会福祉士等の種別に配慮したプログラムを用意している。</p>	b
---	---	---

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

人事配置は基準に応じ組織内の具体的プランに基づき体制づくりを構築している。
 福利厚生については希望者に、充実した職員健康診断や予防接種も実施している。
 人材育成に人事考課などを取り入れ、荘長は全職員と定期的に面談をする機会を設け、職員に期待している仕事の内容を明確に伝えるなど、職員のモチベーションや意識向上に繋げる取り組みに期待したい。
 職員の休息の確保や有給休暇の未消化について組織全体で検討されることを望みたい。

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果	
①	<p>養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法を職員に周知し、共通の認識を持って一定の水準の養育・支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法には、子どもの尊重やプライバシー保護の姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法に基づいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p> <p><input type="checkbox"/>マニュアルは、子どもの状態に応じて職員が個別に柔軟に対応できるものとしている。</p>	b

②	標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 見直しの時期は、少なくとも1年に1回は検証し、必要な見直しを行う。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法の見直しに当たり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

(8) 評価と改善の取組

①	施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
	<input type="checkbox"/> 評価に関する担当者・担当部署が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の参画による評価結果を分析・検討する場が、施設として定められ実行されている。	
	<input type="checkbox"/> 3年に1回以上第三者評価を受けるとともに、定められた評価基準に基づいて、毎年自己評価を実施している。	
②	評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の参画により評価結果の分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 分析した結果やそれに基づく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善実施計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善実施計画の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて計画の見直しを行っている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

養育・支援についての標準的な実施方法は管理規定等に基づき共通認識を持つように促しているが職員の支援方法にバラつきなどが見られるため、毎月開催される会議などで共有を図り統一した支援ができるよう望みたい。

今回の第三者評価の自己評価、評価結果等を全職員で分析・検討され、より一層質の向上に取り組まれることを期待したい。

